

四年 江波戸翔子

左右



4年 江波戸翔子さん

※4年生になつて初めて書いた作品です。右という字がむずかしかったです。



2年 加瀬波瑠奈さん

※火じでけむりをたくさんかいたところとないている人たちをくふうしました。



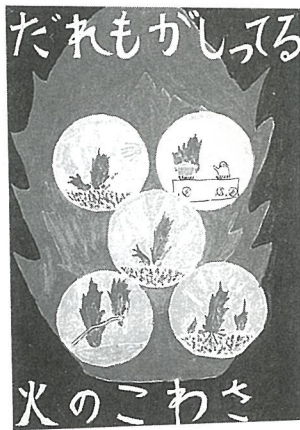
『ほう火ポスター』

あつまれ みんなの力作

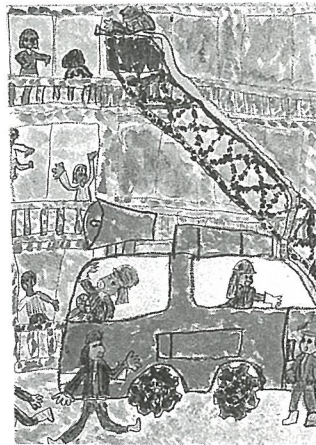


5年 鈴木清香さん

※言葉を考えるのと、色を組み合わせてぬるところがむずかしかったです。



『防火ポスター』

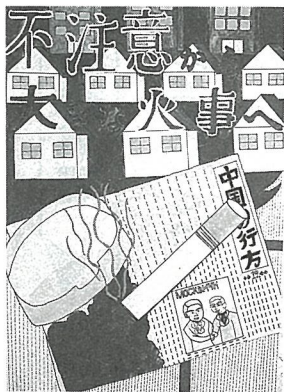


『火じのげんば』



3年 行方亜衣さん

※ビルが火じになつて、はしご車が来てけそうとしているところです。



『防火ポスター』



6年 実川知由君

※たばこが原因の火災が多いので、みんなに注意してもらおうと思つてかきました。



4年 土屋英雅君

※最後のほうに気をつけて書きました。一字の作品なので大きく書きました。

四年 土屋 英雅 光



ひかり歌壇



伊藤 定男 (尾垂五区)

吾が頭上爆音高く飛ぶ機影

邃き青空点となりゆく

爆音に驚き見上げているうちに、機影は遠く青空に吸いこまれてゆく。

青柳 フミ (橋場)

仄かなる香り水仙風に折れ

破れし花壇にヒヤシンス伸ぶ

花には風がつきもの、それでもまたさざざと美しい花を楽しませてくれます。

藤代 敏子 (宮内)

さ夜更けて響く春雷隣室の

孫のうまいをそつと窺う

幼孫を気遣う気持ちが優しく詠まれました。

高梨 キヨ (木戸)

生くるもの命輝く春ざりて

花粉症病む己佗びしむ

花粉症の苦痛は一入と同情せずには居られません。

評者 竹内 紀葉

ほつほつと咲くが見えし雪柳 雪の変化に三日待たせず